



岡山県内経済情勢報告

令和6年4月22日


財務省中国財務局

岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 原田
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」




| 項目 | 前回（6年1月判断） | 今回（6年4月判断） | 前回比較 |
|------|-------------|-------------|---|
| 総括判断 | 緩やかに回復しつつある | 緩やかに回復しつつある |  |






（注）6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

| 項目 | 前回（6年1月判断） | 今回（6年4月判断） | 前回比較 |
|------|-------------|-------------|---|
| 個人消費 | 緩やかに回復しつつある | 緩やかに回復しつつある |  |
| 生産活動 | 足踏みの状況にある | 足踏みの状況にある |  |
| 雇用情勢 | 緩やかに持ち直している | 緩やかに改善しつつある |  |

| | | | |
|--------|----------------|----------------|---|
| 設備投資 | 5年度は前年度を下回る見込み | 5年度は前年度を下回る見込み |  |
| 企業収益 | 5年度は減益見込み | 5年度は減益見込み |  |
| 企業の景況感 | 「上昇」超に転じている | 「下降」超に転じている |  |
| 住宅建設 | 前年を上回っている | 前年を下回っている |  |
| 輸出 | 前年を下回っている | 前年を下回っている |  |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、催事効果などで来店客数が増加し、衣料品や化粧品などが好調だったことから、前年を上回っている。スーパー販売は、商品単価の上昇に加え、イベント時のごちそうとして総菜などが好調なことから、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、来店客数の増加により飲料などが好調なことから前年を上回っている。家電大型専門店販売は、買替需要が一段落したパソコンなどが減少したことから前年を下回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか医薬品などが好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、商品単価の上昇に加え、ペット関連商品などが好調なことから、前年を上回っている。乗用車販売は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を下回っている。

このように、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 【百貨店】 今期はコロナ5類移行後初めての年末年始にあたり、初売りや催事の効果で来店客数が増加したことにより、衣料品が順調だったことに加え、化粧品などが好調だった。
- 【スーパー】 クリスマス、年末年始、節分などのイベントの多かった今期は、刺身、寿司、オードブルなどのごちそうメニューや初売りの福袋などが好調であったことから、売上高は前年を上回って推移した。
- 【コンビニエンスストア】 物価高の影響から弁当にプラス1品するサラダなどが買い控えられているものの、人流増加に伴い来店客数は前年比増となっており、飲料などが好調なことから売上も前年比増となっている。
- 【ドラッグストア】 新規出店効果もあり来店客数が増加しているほか、インフルエンザなどの流行により風邪薬が好調な状況が続いている。
- 【ホームセンター】 商品値上げにより客単価上昇。コロナ禍においてペット飼育頭数が増えた影響などから、ペット関連商品が好調。
- 【商店街】 感染症の5類移行やイベントにより人流は増加。今後もイベントの定期開催を継続することにより、売上増加に期待している。
- 【専門店】 商品値上げの影響や人流増加による来店客数の増加により、売上は増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。特に今春は感染症5類移行後初めてのお花見シーズンであり、開花直前に気温が下がったことから桜が咲いている期間が長くなったことで、売上増加に寄与している。

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

輸送用機械は、自動車で半導体の供給制約が和らいでいることに加え、造船で新規受注の獲得もあり横ばいとなっている。化学は、中国の電気自動車向け需要が好調なものの、国内外の需要に弱い動きがみられるため横ばいとなっている。汎用・生産用・業務用機械は、国内外の需要が堅調なことから増加している。電気機械は、海外経済の回復ペース鈍化の影響を受けて減少している。鉄鋼は、自動車向けを中心に需要が好調であることから横ばいとなっている。

このように、生産活動は、足踏みの状況にある。

- 【自動車】 供給制約の影響が和らいでおり、生産量は前年を上回っている。
- 【造船】 足元の操業状況はやや低下したが、需要は好調で今後もコンスタントに新規受注を見込んでいる。
- 【化学】 中国の電気自動車向け需要は好調なものの、国内外の需要に弱い動きがみられるため前年並みの生産量で推移している。
- 【汎用・生産用・業務用機械】 自動車向けを中心に受注が堅調なことから、一定数の受注残を抱えており、フル生産が続いている。
- 【電気機械】 海外経済の回復ペース鈍化の影響を受けて、スマートフォン向けを中心に受注が減少している。
- 【鉄鋼】 海外市況低迷の影響を受け、海外向けが減少しているものの、国内向けでは、需要が好調な自動車向けを中心に前年を上回って推移している。

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

新規求人数が前年を下回っているものの、有効求人倍率は概ね横ばいで推移している。また、企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（6年1-3月期）の従業員数判断 BSI でみると、「不足気味」超幅が高水準となっている。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 【職業紹介】卸売・小売業による新規求人に一服感がみられるなど、物価上昇に伴う企業収益悪化の影響を受け、求人を控えるなどの弱い動きもみられるものの、有効求人倍率は概ね横ばいとなっている。
- 【運輸、郵便】梱包や検品作業を担う人員が不足している。人手不足の中で受注量が増加しているため、受注を見送った案件もある。

■ 設備投資 「5年度は前年度を下回る見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」6年1-3月期

- 製造業では、鉄鋼で大型投資の反動減がみられるものの、繊維工業、化学などで生産能力の増強投資がみられることから、前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、金融、保険で老朽化による店舗建替えや改装などがみられるものの、小売、農林水産業で前年度投資の反動減などがみられることから、前年度を下回る見込みとなっている。

- 【鉄鋼】5年度は省エネ対応のための設備投資を予定しているものの、4年度に製造ラインの大型投資を行ったことから反動減となっている。
- 【繊維工業】生産能力・開発体制増強のため、工場の増設を予定している。
- 【小売】4年度に大規模な改装やテナントの入替えを行った反動から5年度は減少している。
- 【金融、保険】店舗建替えのほか、新紙幣に対応するため ATM の更新を予定している。

■ 企業収益 「5年度は減益見込み」（全産業）「法人企業景気予測調査」6年1-3月期

- 製造業では、価格転嫁の進展により木材・木製品などで増益見込みとなるものの、設備投資に伴う減価償却費の増加により化学や、原材料価格の上昇により自動車などで減益見込みとなっている。
- 非製造業では、コスト削減等により小売などで増益見込みとなるものの、設備投資に伴う減価償却費の増加により情報通信、燃料費などの上昇により運輸、郵便などで減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超に転じている」（全産業）「法人企業景気予測調査」6年1-3月期

- 企業の景況判断 BSI は、「下降」超に転じている。なお、翌期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、持家や貸家などが減少していることから前年を下回っている。

■ 輸出 「前年を下回っている」

- 輸出は、品目別では自動車などが増加しているものの、石油製品や鉄鋼などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、中東などが増加しているものの、アジアや中南米などで減少している。

岡山県内経済情勢報告

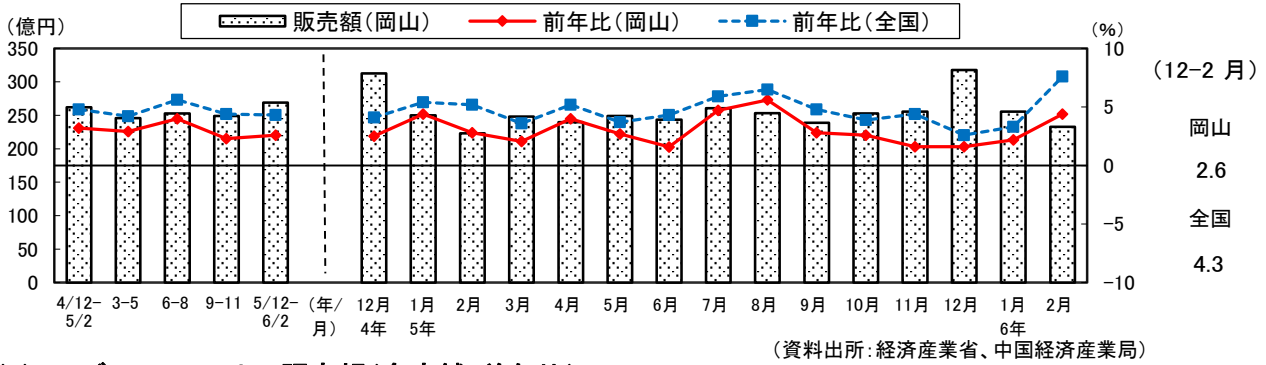
資料編

| | 目次 | ページ |
|----|--------------|-----|
| 1. | 個人消費 | 1 |
| 2. | 生産活動 | 3 |
| 3. | 雇用情勢 | 4 |
| 4. | 設備投資 | 5 |
| 5. | 企業収益 | 5 |
| 6. | 企業の景況感 | 5 |
| 7. | 住宅建設 | 6 |
| 8. | 輸出 | 6 |

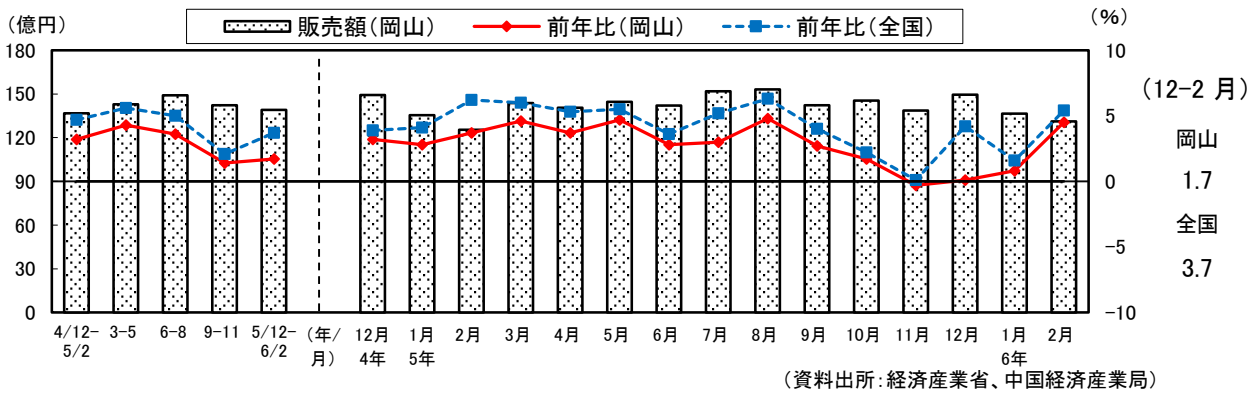
※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1.個人消費 緩やかに回復しつつある

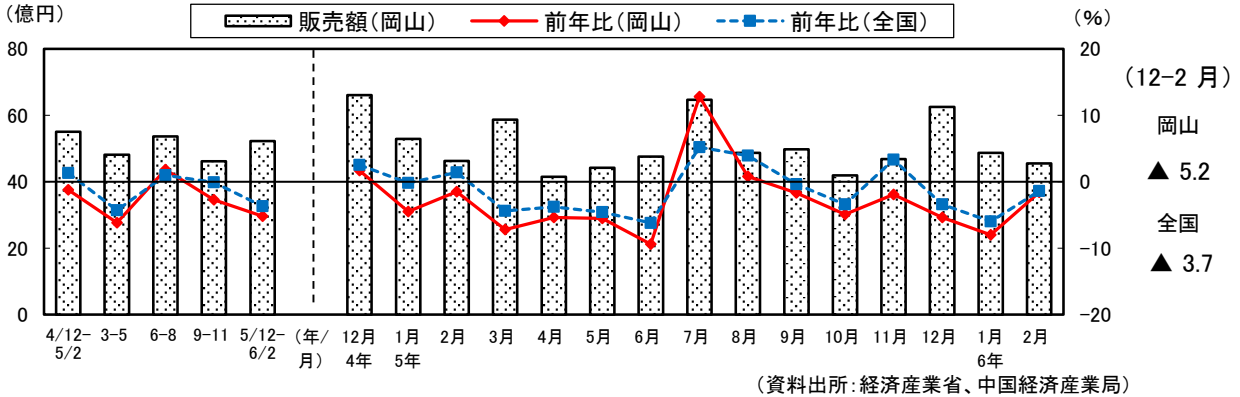
(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比)



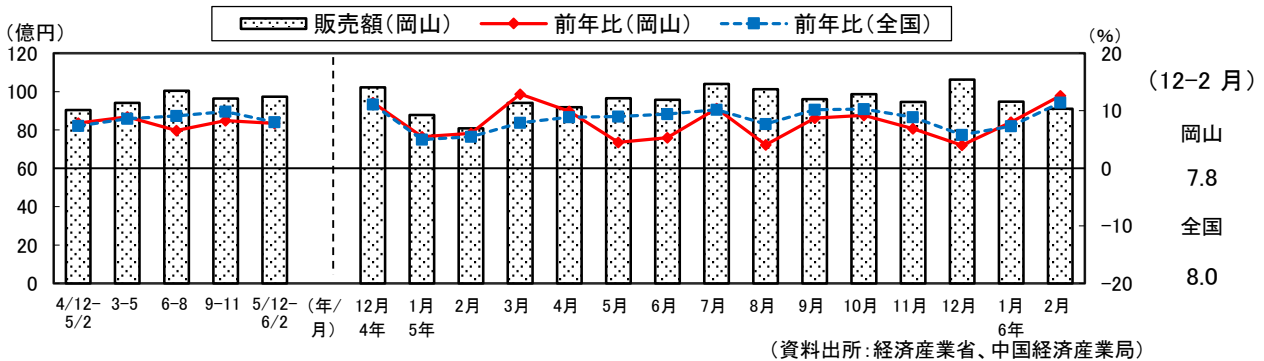
(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



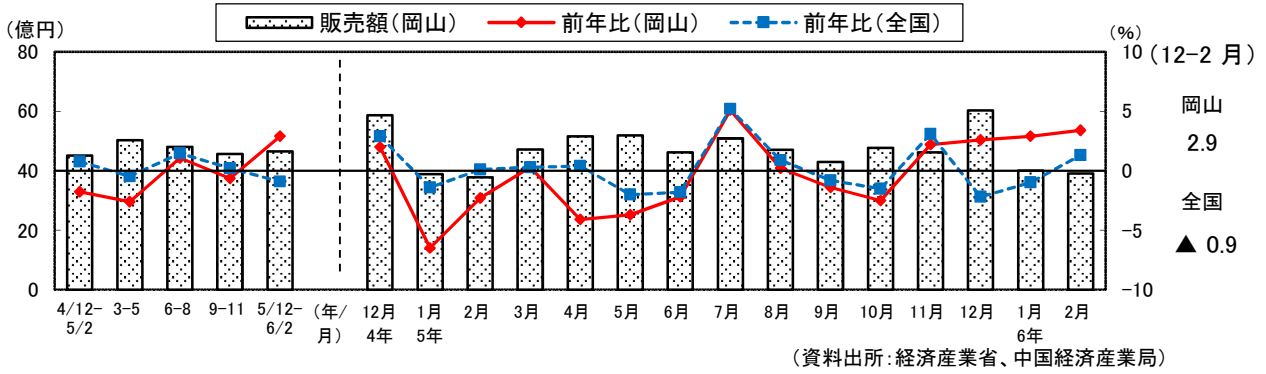
(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



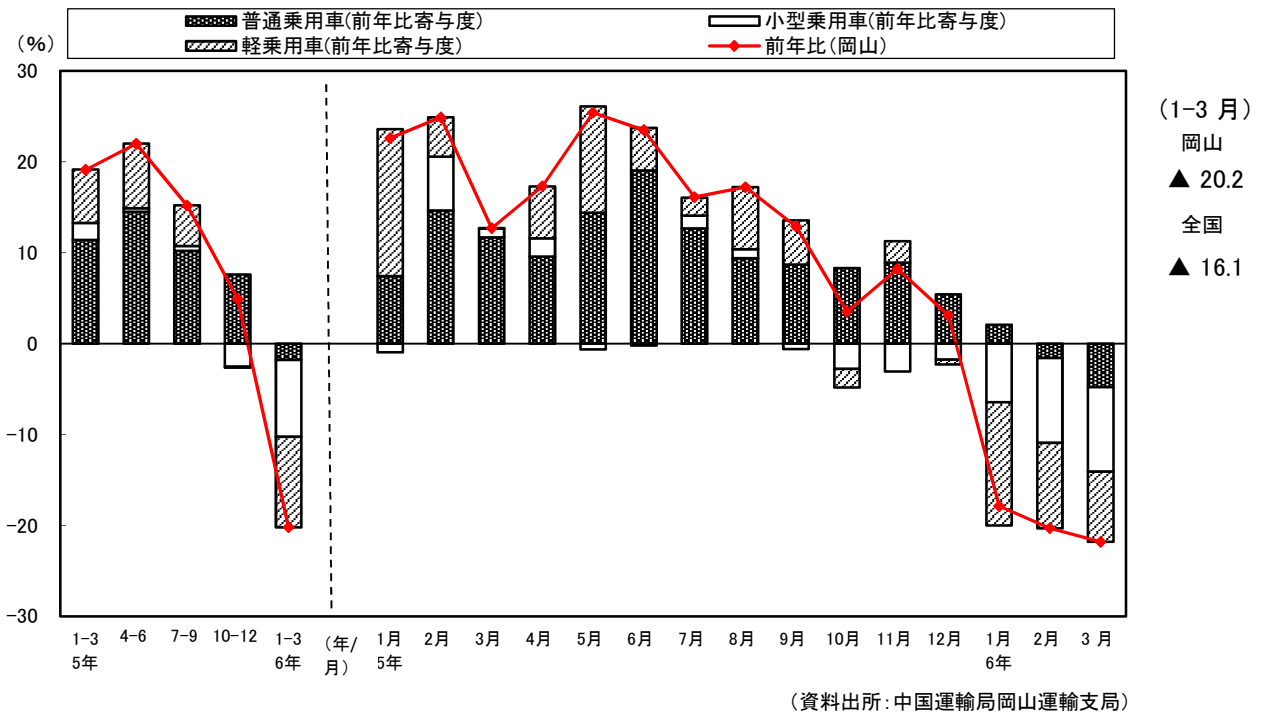
(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



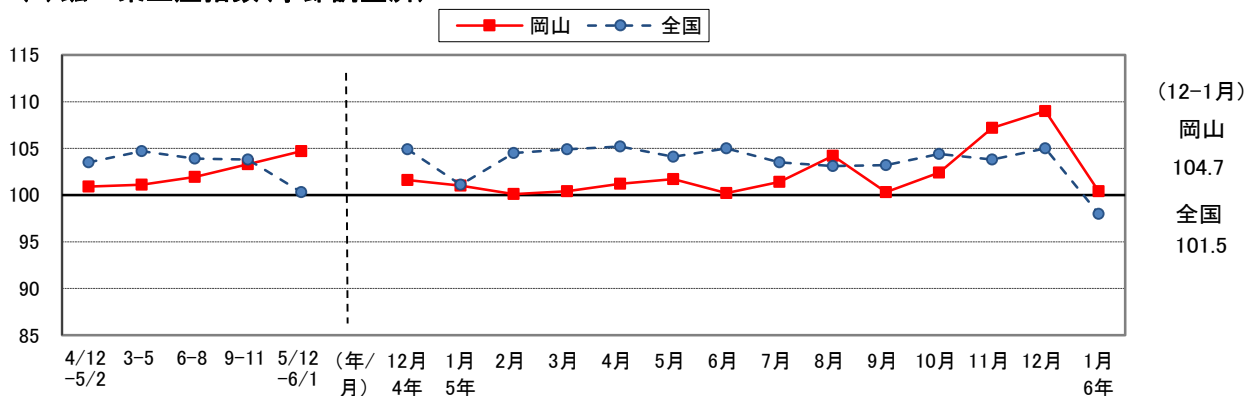
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2.生産活動 足踏みの状況にある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

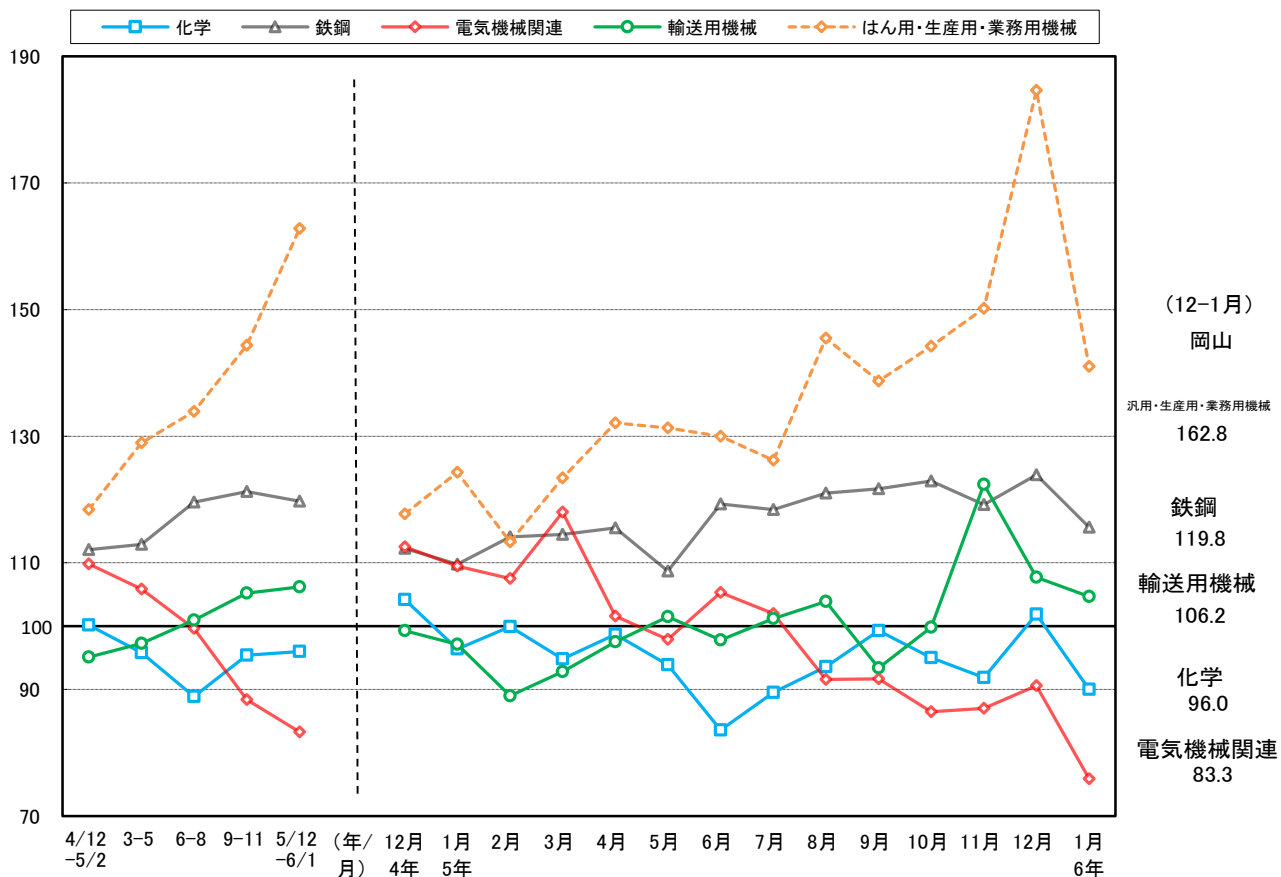
(指数)(令和2年=100)



(資料出所: 経済産業省、岡山県)

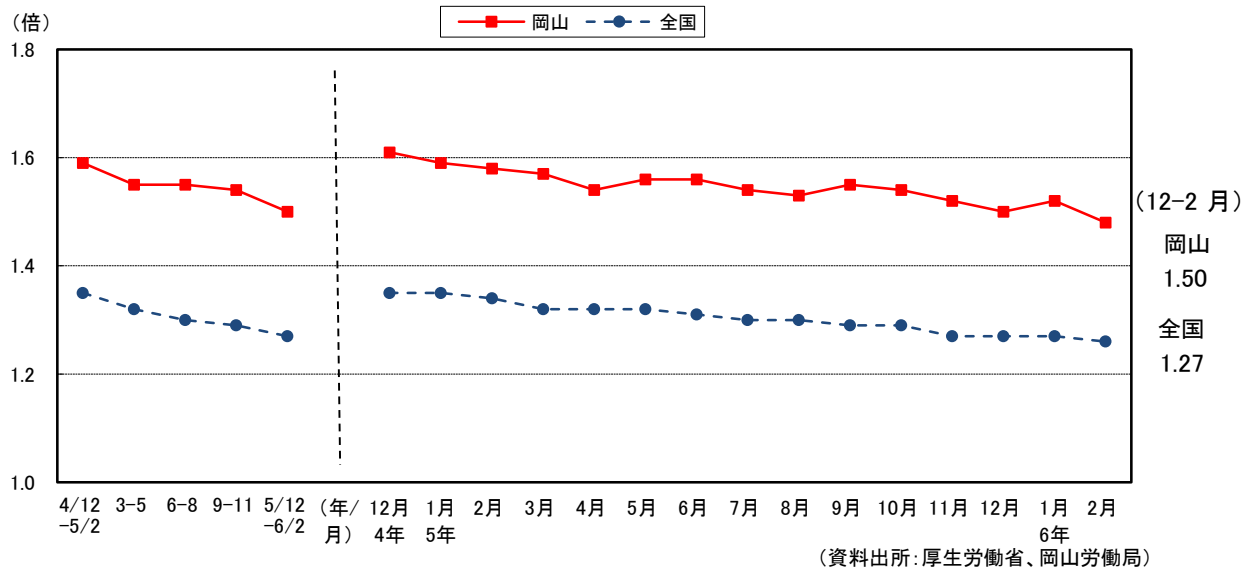
(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

(指数)(令和2年=100)

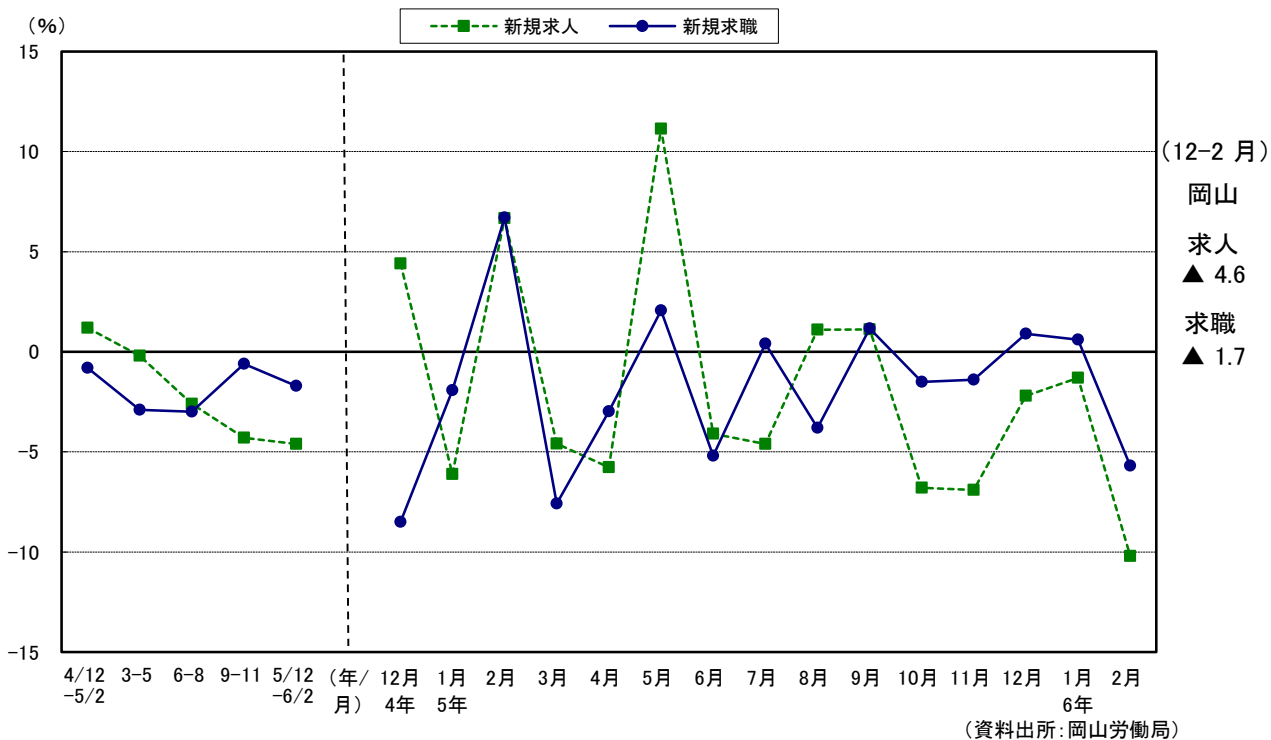


3.雇用情勢 緩やかに改善しつつある

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



4.設備投資(除く土地、含むソフトウェア投資) 5年度は前年度を下回る見込み

(前年度比増減率:%)

| 設備投資 | 全産業 | | 製造業 | | 非製造業 | |
|------|--------|-------|-------|------|---------|-------|
| | (▲3.1) | ▲ 1.8 | (2.5) | 1.7 | (▲14.7) | ▲ 8.8 |
| 5年度 | | | | | | |
| 6年度 | | 14.9 | | 11.4 | | 32.8 |

(注)当所法人企業景気予測調査(6年1~3月期)結果
()書きは前回(5年10~12月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5.企業収益(電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く) 5年度は減益見込み

(前年度比増減率:%)

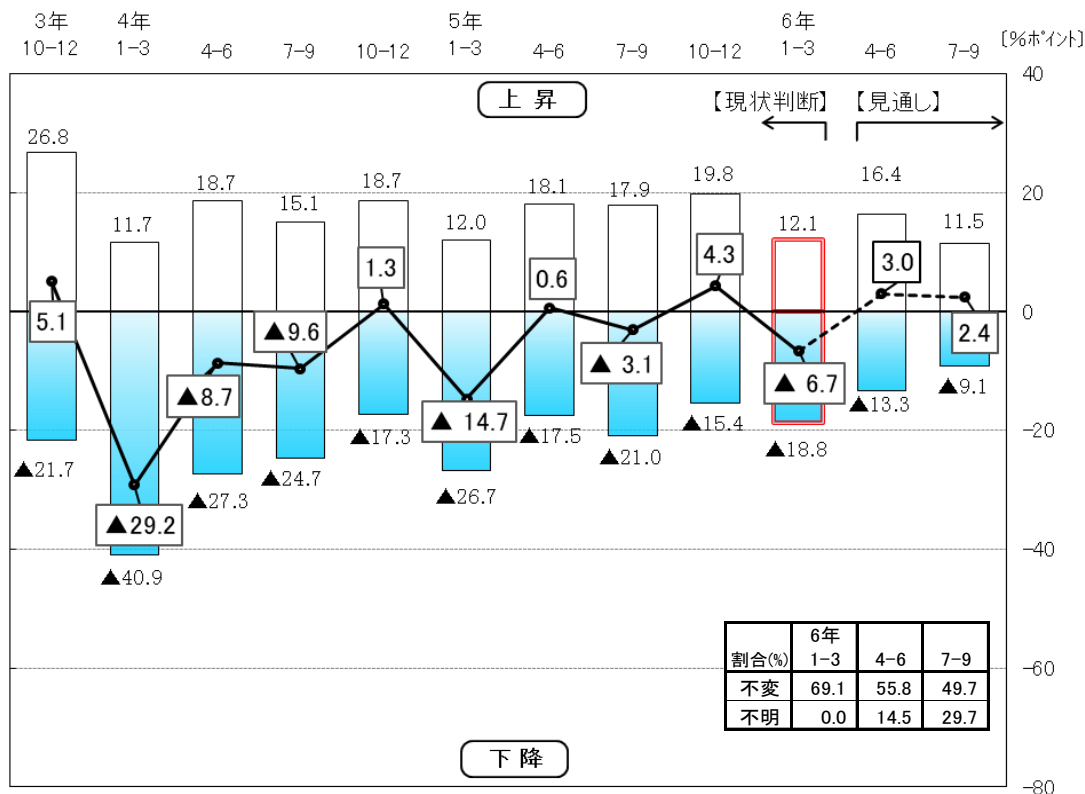
| 経常利益 | 全産業 | | 製造業 | | 非製造業 | |
|------|---------|--------|---------|--------|---------|-------|
| | (▲27.5) | ▲ 15.2 | (▲36.6) | ▲ 21.6 | (▲13.6) | ▲ 5.7 |
| 5年度 | | | | | | |
| 6年度 | | 19.6 | | 29.8 | | ▲ 6.3 |

(注)当所法人企業景気予測調査(6年1~3月期)結果
()書きは前回(5年10~12月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6.企業の景況感 「下降」超に転じている

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

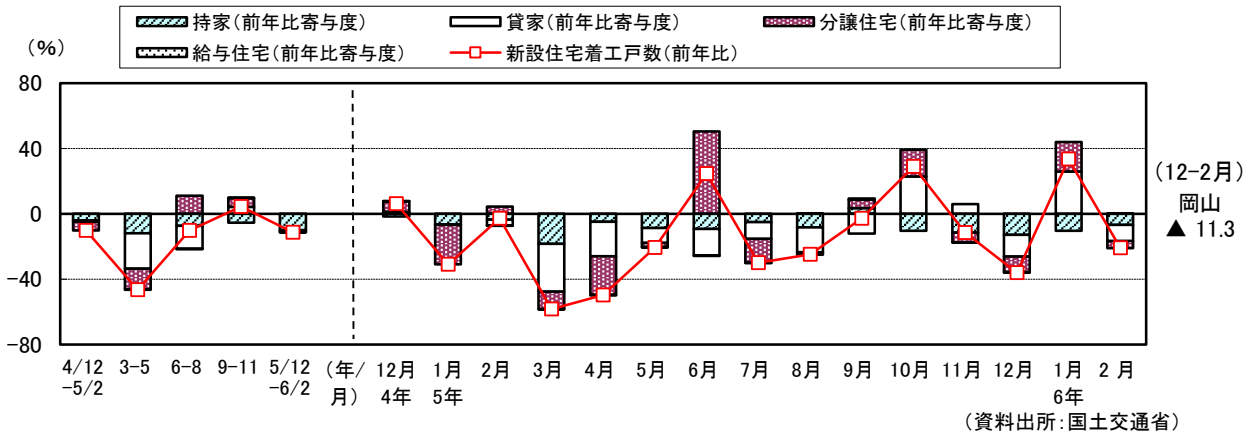


(注)当所法人企業景気予測調査(6年1~3月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

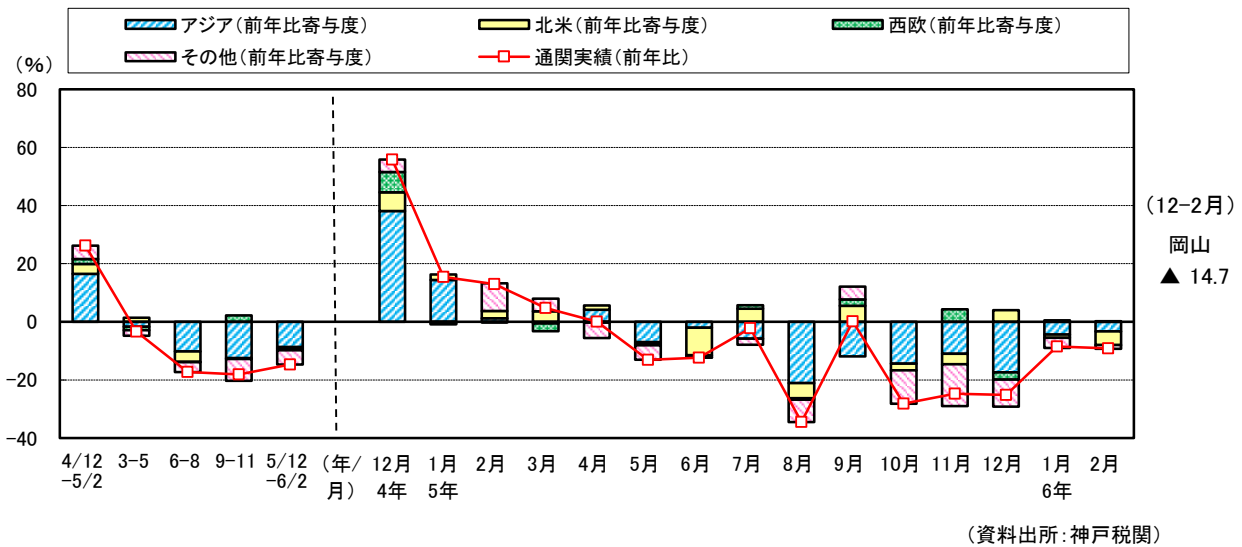
7.住宅建設 前年を下回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8.輸出 前年を下回っている

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

